

令和6年度 自己評価 まとめ

1月9日

	担当	項目	成果	課題	改善策
1	教務	1. 教育目標		課題：「体をきたえる子ども」の「きたえる」という言葉は、今の時代、体罰に近い言葉に聞こえる気はします。内容は問題ないと思います。 解決策：「よく体を動かし、よくあそぶ」でしょうか？	校長先生に意見として把握していただく。
2	教務	2. 学校の重点目標		地域の教育資源の活用を全学年でより充実させたい。 →地域の人材バンクを整備し、取り組みたい学習に合わせて地域の教育資源、外部人材を十分に活用できるように整える。	次年度の取組に生かす。
3	教務			職務の効率化をより一層進める。 →働き方改革に関連し、業務の精選、それぞれの取組の質の向上、職務の効率化の3点を並行して前進できるようにする。各項目の具体策をもってこれを進める。	次年度の取組に生かす。
4	教務	3. 各教科		課題：外国語活動のALTは高学年も必要 解決策：月2回ずつ、中学年、高学年などの時間割を組む…可能ですか	ALTは低・中学年に配置されており、変更ができない。
5	教務			課題：毎時間の外国語活動で学習する内容が分からなかったです。 改善策：おおまかな学習内容（教科書のページ数や活動内容）も事前に共有して頂けると、担任も授業の準備や指示をよりすすめることができると感じました。	担当を中心に、指導計画を共有して授業に臨めるようにする。
6	教務	4. 総合的な学習の時間	研修をしていただいたことで、総合的な学習の時間に対する計画、評価の重要性について分かった。	課題：年間で見通しがもちづらかったです。 改善策：年度初めに総合的な学習の時間のすすめ方について検討する時間が欲しいと思いました。	適切な指導計画を学年で十分に検討し、見通しをもって指導ができるようにする。
7	研修			各学年でより充実した学習となるようにする。 →今年度のような研修を充実させる。または校内研究として取り組むのはどうか。ねらいや材、学習過程を検討し、わたしたち教員がまず具体的な見通しをもって学習を進められるようにする。	来年度の校内研の候補として挙げたい。 年度末に検討したい。
8	研修			来年度以降の実施に向けて各学年の大まかなテーマを決めたり、児童の実態に応じた計画を立てたりすることが必要だと感じた。	実施するにあたり、大まかにテーマを決める。社会などの内容にも関連付けて。 3年：地域に関わること など
9	教務			三茶太鼓は総合の年間指導計画に入れるのか？	三茶太鼓は、学級活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」・日本語「日本の伝統・文化に触れよう」の一部と捉え、カリキュラムマネジメントを進め、実践していく。
10	特活		どのクラブも児童の主体的な活動になるように工夫して行っていた。	縦割り班での遊びの種類が少し少ないと感じる。子供たちが見られる遊び紹介の資料等を作れないか。自分少しだけ資料をもっています。みなさんがもっている資料を集めたら、よいものがつくれるのではないかな。	資料を作成し、6年生に配布する。また合わせて教員にも共有することで、毎回の活動が充実したものになるようにする。
11	特活			料理・手芸クラブに食物アレルギー除去対応の児童が在籍しているため、安全のための指導に細心の注意が必要。 →次年度のクラブ活動の希望調査を行ってメンバーを決めていく際、料理・手芸クラブは食物アレルギー対応の児童は他のクラブに入るようにする。本来であれば活動ができるようにしてあげたいが、安全を最優先に考え、このようにする。	・料理手芸クラブにアレルギー対応の子が入らないように配慮する。事前に扱う食材を周知した上で子どもにアンケートをとる。クラブを分ける際も確認しながら行う。 ・クラブ希望調査に「茶道クラブ」を入れて、児童の希望によって進めていく。

12	特活	6. 特別活動		クラブ活動で食材を扱う活動ができないと聞いた。 →「料理手芸クラブ」は「手芸クラブ」に変更、科学クラブも食材を扱う実験を行わないということをクラブを選ぶ段階で子どもたちにも共有し、教員にも全体共有する。	→「 飲食を伴うクラブを設立しない 」等検討。
13	特活			料理手芸クラブには、アレルギーがある児童はなるべくはいらないようにしたい。（6年の第一希望以外）	
14	教務			コロナ禍前にあった「お茶クラブ」は外部講師と繋がるうちに復活させたい。	
15	特活		三茶まつりで歌う「すてきな未来」は、伴奏譜がなく、音楽専科の指導が厳しいため、お昼に音源を流してもらうのはありがたかった。	改善策：「すてきな未来」は伴奏譜がなく、作る技術、耳コピする技術がないので、現状としては指導が厳しい。今年度のように、音楽を流す形態で継続したい。	★来年度も「すてきな未来」はお昼の放送や当日に音源を流す形で継続する。
16	特活			学級活動の計画が不十分 →学級活動の各学年の年間指導計画を今年度中に見直し、整えて次年度を迎えるようにする。（１）から（３）を適切に計画に盛り込む。	次年度の計画から位置付けていく。
17	特活			三茶まつりの内容が高学年になるにつれ、お化け屋敷系になりがち。ホラーの内容や血が出てくる。より適切なものに工夫できないか。また、学級活動の時数だけをたくさん使うのではなくカリキュラムマネジメントができないか。 →「学習発表まつり（仮）」にできないかと意見をもっています。学習に関係するお祭りというコンセプトをもち、それぞれの児童が意欲をもち、役割をもち、全校で交流できるお祭りにする。例えば、２－１で実施していたようなお店にすれば、生活科の学習と位置付けることができます。国語のお話を使ったペープサートや群読、劇のお店を出せば国語、理科の実験を生かしたゲームができるお店も考えられます。いろいろな相撲が体験できるお店なら、体育や日本語、生活科などの延長にできる内容も考えられます。「学習したことを生かしたお店を出し合うおまつり」といった工夫の方向を提案します。	特活部で来年度以降の三茶まつりのやり方を検討した結果 ①現行のままのやり方で行う ②規模を縮小して行う（特別教室をなしにするなど） ③名称を変えて学習発表会（仮）にして、教科の内容を生かしたお店を出す ④年度当初には明示せず、必要に応じて開催する方法を考えた。三茶まつり単体ではなく、来年度の行事をどのようにしていくかということと合わせて検討していくことが必要。 → ③の方向で検討。
18			講師の先生、支援員の先生、SSSさんがたくさん助けてくださり、ありがたかったです。		
19			専科の先生方が気付いて下さり、対応をしてくれていることがありがたいです。引き続き学校全体で見えていく体制をとっていきたいです。		
20	生活		校内体制を整えていただいたこと、専科の先生、もしもの先生、学校生活サポーターの方々のおかげで配慮を要する児童への支援ができた。	学年学級の実態に応じて支援体制を継続してほしい。	

21	生活	9. 特別な配慮を必要とする児童への指導	ほっとルームがあることで、落ち着いて学校で生活できた児童	課題：学級が厳しくなる前の兆候はあり、叱ることも大切だが、タイミングとして、「そこで叱っていいのか」「その指導を続けると学級の雰囲気悪くなりそうだな…」という場面をよく見た。 改善策：学級の雰囲気の良い学級の先生は、それだけの技術を必ず持っている。若手の方も多いので、良い指導方法も、もう少しな指導方法も満遍なく見て、吸収して、よりよい教育活動が行える教職員を目指して、私たちも成長していきたい。	「本時のめあて」「本時のまとめ」などの授業の展開や、注意をするときの工夫などをOJTしてはどうか。研修としてではなく、時間のある時、できる範囲で、意識して他学級を見に行く。 私たち教員も互いに学びながら指導改善を重ねていく。
22	生活		支援の先生・副校長先生・専科の先生方にたくさん助けていただき、大変ありがとうございました。ありがとうございます。	特別な配慮を必要とする児童への対応に複数の人が関わり人によってOKなこととNGなことが存在すると児童を混乱させてしまう。 →対応の仕方や禁止事項、過ごし方などは適宜共有しながら学校全体で対応していきたい。	担任が支援者と相談して決めていく。終礼で共有、変更時も周知する。包括専門員の机上に対応一覧のファイルをおいて閲覧できるようにする。
23				「もしも」の時間以外にも、教室前で見守っている専科の先生などの負担が大きいように感じた。見守り体制は必要だが。	必要に応じ、もしも当番も支援する。担任のもしも当番は、週に一回程度校内を見回る枠を作ってはどうか。 →来年度はもしも当番を作らない。空き時間はできるだけ職員室で作業し、対応が必要なときにサポートに入るようにする。空き時間は積極的に手伝う意識を互いにもち、助け合う。
24	生活			専科の先生方の負担が多いと感じる。もしもデスクの先生方にも見守りをお願いするのはどうか。	
25	生活		①保健室登校の児童の給食を養護が運べない時に、専科の先生や寺島さんに運んでもらった。とても助かりました。 ②保健室登校の児童が担任の空き時間に個別で学習指導をしてもらったり保健室に降りて声かけしてもらったりしていた。担任との関わりが途切れないため児童との良い関係が築けていると感じた。こういったケースの場合は、引き続き行っていきたい。	③保健室登校の児童が発熱者や緊急対応で保健室が使用できない場合、職員室か校長室で対応してもらっていた。 ほっとルームを使用するべきところだが、大人が常時つける訳ではないことから利用を控えた。 →ほっとルームは常時大人がつかないのであれば使用できないのを前提とする。	教室にいられない児童の居場所はほっとルームにしたいが、（保健室に居させられない時もあるので）大人が付けられない時は職員室、校長室で対応をお願いします。
26	生活		多くのサポートを受けることができ、助かった。	今後も必要な学年にサポートを配置できるよう継続してほしい。	
27			何かあった時に職員室に助けを求めることができるという安心感は、とてもありがたいと感じた。「もしも」の先生の配置なども含めて。		
28	生活			冬の体育時の長ズボンの着用について。指定の体育着がなくなっている中、なぜだめなのか、説明することが難しいと感じています。学年での話し合いの中で、何がだめで、何が良いのか、判断に迷うものもあると思うので、着用可にすることは難しいと感じました。ルールがあることを全家庭に改めて周知できると良いと思うので、10月の学校日より冬の体育時の服装について改めて触れる、などいかがでしょうか。	基本は現状通り、半袖短パン、上半身はトレーナーなどを可とする。体調などの都合で保護者から依頼があれば、個別対応とする。迷うときは学年、体育部と相談。
29	生活			校外班活動が年に3回設定されているのは多い。 →コロナ禍前は保護者も参加して顔合わせをしていたとのことだったので3回することに意味があったのかもしれないが、保護者は参加せず子どもたちと担当の先生の顔合わせのみならば年度初めに1回のみでよい。	1回のみ、下校訓練まで行って終わりたい。 →来年度より、校外班を廃止する。色別の登下校コースで統一し、集団下校等でも色別で捉える。色別コースの見直し・

30	生活	10．生活指導	各行事を修正し実施してきた。	校外班を廃止しては、と意見を受けた。みなさんの意見を聞きたい。集団で下校させるとなったら、校外班がないと集まらない可能性もある。	分割・担当教員分担を計画する。
31	生活		実態に応じて学校生活のきまりを更新していただいたのがありがたい。	教室での遊び道具にばらつきがある。（各担任の先生が自費で用意しているものもある） →各教室で遊べるもの（トランプなどのカードゲームや簡単な遊び道具など）を一括して購入したい。	こまのように物が飛んで危険な遊びは、担任の管理下でのみ可。指導が難しい場合は禁止する。担任がトランプ、かるた等の私物を貸すのは許容するが、過度に買うことの無いよう学年でそろえて制限する。トレーディングカードは不可。 →トランプ等、全学級分の一括購入を計画する。
32	生活			保健室で給食を食べる児童の給食を子どもが運んでくる時があった。年度当初、危険なため大人が運ぶと周知されたと思う。 →事故がないように全学年、大人が運ぶことを徹底したい。	大人が運ぶ。難しい時は内線で職員室か保健室に応援を頼む。
33	教務			○書写で使用する半紙について 現在学校で購入した半紙を使用している学級とそうでない学級でばらつきがある。原則各家庭で準備していただくように改めて統一したい。 →半紙を取るために歩くスペースもあまりとれないため。また、落ち着いて字を書く雰囲気を作りたい。 無くなってしまったり、忘れがあったりしたときに学校の半紙をあげるように再度徹底したい。	シャープペン、ペン類は禁止。通常の鉛筆類で芯によるけがの心配、紛失等のトラブル防止のため。小学校段階では書字の習熟のためにも鉛筆が望ましいと聞いている。特に家庭からの要望があれば考慮の余地があるが、無秩序に広げたくない。
34				○学習道具、持ち物のきまりについて 例えば、「シャープペンなどの使用は学校全体として禁止とする」など基本的なルールを確認したい。 →学年がスタートするときに統一して指導・理由説明ができると、指導に差が出ず、児童の納得感や教師への信頼感にもつながると感じる。また、宿泊や社会科見学など鉛筆よりシャープペンのほうが良いと判断される場合は使用できるなども伝えていきたい。	→新1年生保護者会で配布している学校のきまりを統一のルールと捉え、日々の指導にも生かす。
35	生活			各学年の靴箱の清掃について。掃除の時間に靴箱の砂払を各々のクラスで行ってほしいです。	各学級で当番を付ける。人数が足りない場合、週1回でも行うようにする。教育計画の清掃のページに載せる。 →全校での清掃分担と各学級担当を組み合わせで計画する。玄関で掃除をする児童が多すぎて危ないということがないようにする。
36				下校時間が遅いクラスがあり、児童も習い事等の理由で走って帰ることが多い。下校がかなり遅れる場合は昇降口まででなく、正門や信号を渡るところまで見てもらえると安全。	下校時刻を厳守する。下校が遅れる児童がいた場合、左記のように見守りをする。
37	生活			持ち物や鉛筆削りの使用、水筒の扱いを全体で確認するのはどうか。 ・水筒を置く場所（机に置くのは基本なしとする、移動教室での持ち運び）、水筒の飲むタイミング（授業中ではその都度飲んでいいのか、先生に一言言ってからか。）を統一する。 ・授業中に鉛筆削りを削るときは、一言声をかける。家で鉛筆を削ってくる。 ・シャープペンを持っている子への指導。	提案通り 周知する。教育計画の生活ルールにも載せる。 →現在の生活で水分補給を禁止することはできない。授業中のマナーとして指導し、やむを得ないときは飲んでよい。水筒置き場を適切に指導する。

38	生活			入ることができない日・時間に、看護当番の割り当てをしている場合があった。 →看護当番の週。出張、校外学習、学年の体育館の見守り等があるときは、校庭・校内の看護担当に入れないようにする。	班の中で事前に確認、交代して対応する。
39	生活			学校で給食以外で児童の飲食を行う際は、必ず保護者に事前に内容を知らせ、同意をとるようにする。	提案通り 周知していく。教育計画のアレルギー対応ページにも載せる。
40	生活	1 1 . いじめ防止等の取組		いじめの未然防止、早期対応を組織的に行いたい。 →月に一度、金曜日の終礼を学年主任会に変更し、各学年からの情報共有、相談、確認の時間とできないか。または別の手段で短時間でも定期的な情報共有の時間をもちたい。	可能であれば、そのようにする。
41		1 4 . 働き方改革	年度初めに午前授業だったのは助かります。		
42			早く帰る先生が多くなった。		
43			講師の先生の時間を確保してくださりとてありがたかった。空いた時間を他の教材研究などの時間に充てることができた。		
44	教務			放課後に作業できる時間を増やすために、B時程の日を増やすのはどうか。	・次年度の計画に生かす。
45	教務		・4月に授業時数を軽減したことで、新年度の準備がしやすかった。 ・学年だよりを学校だよりによりに統一したことで業務量が軽減された。	・学期末の所見作成や事務作業が増える時期にも4時間や5時間授業を増やすことは可能か ・学校だよりのみの継続	・どの学校でも、何らかの工夫をしながら年間授業時数を満たすように計画を立てている。端的に言うと、B時程を増やすということはどこかで6時間授業が増えるということ。また、次年度より、振替のない土曜授業が廃止となる。これらを含め、調整をして年間計画を立てる。
46	教務			他校の取組で、B時程の日数を増やし、放課後の時間を確保していると聞きました。放課後の時間を5分でも増やしたいです。	
47		行事	もみの木コンサートの体育館練習では、ゆみこ先生に伴奏してもらいとても助かった。		
48				今年度検討することではないかもしれませんが、業務削減、時数確保のためにも、学芸会、音楽会、展覧会を3年で回していけたらと思いました。 メリットは時数確保などが挙げられるが、音楽的な面だと児童のモチベーションと学習の深まりを考えると2年ごとでもよいという意見があった。	検討事項
49				3・4年生の遠足は気温が高い中、約130名が電車で遠方に行く。安全な実施や内容の充実について、在り方を検討したい。 →次年度から、3・4年生の遠足を実施しない。 支援が必要な児童が少なくない中、引率人数にも限界があり、電車での実施は難しさがある。また、3・4年生の社会科見学と遠足は現状で未分化な側面があり、それほど違いがない。来年度から土曜授業がなくなる中で、授業時数確保としても妥当性があると考え。1・2年生が電車で遠足、3・4年生がバスで社会科見学、5・6年生が社会科見学＋宿泊型行事、でよいのではないか。	左記のように計画していく。

50	教務	通知表		所見は3学期のみでよいのではないか。	<p>・行動の記録の文言について、教務部で再検討し、提案・検討する。但し、今年度の行動の記録は、指導要録の行動の記録と文部科学省の文言に準じて改善・設定したもの。来年度もこれを根拠として検討する。</p> <p>→標準授業時数を満たすには大きな工夫が必要であることが分かった。年間2回の個人面談の時間を生み出すためにかなりの時数を使っている。そこで、個人面談を7月後半の夏休み初めに実施する。それに伴い、1学期の全体所見を個人面談に代える。</p> <p>且つ、4月当初に保護者と話し、保護者の思いを聞くことも貴重な機会である。そのため、4月の個人面談を希望制で実施する。</p> <p>通知表所見は2学期以降の形で以下のようにし、できるだけ年間の児童の取組・頑張り・良さを保護者に伝えられるようにする。</p> <p>＜1学期＞ 個人面談 ＜2学期＞ 低学年→日本語 中学年→日本語・総合的な学習の時間・外国語活動 高学年→日本語・総合的な学習の時間 ＜3学期＞ 全学年→全体所見・道徳</p> <p>※3学期の総合的な学習の時間の評価はキャリアパスポートを活用し、その内容を保護者にも伝えられるようにする。</p>
51	教務		2学期の通知表所見の代わりに個人面談をしたことで、課題などの細かいニュアンスが伝えやすくとてもよかった。	2学期に総合所見はなくなったのに、日本語所見と総合的な学習の時間の所見は残ったままである。 →道徳所見のように日本語や総合的な学習の時間の所見も3学期に1年間の成果を報告する形にするのはどうか。	
52				日本語の所見を書く回数が多い。1回で良いのではないか。また、文字数の制限が少ないと感じる100字を超えてしまうため、100字程度で良いのではないか。	
53				日本語の所見は、年1回でもよいのではないか。また、文字数が80字程度だと難しかった。文字数指定なしでもよいのでは。	
54	教務			日本語の所見80字程度で個人の活動内容と身に付いた力・成果などが伝わる所見にまとめるのが難しい。 →もう少し字数を増やして、年度末に1回の所見にする。	
55				1年生通知表の行動の記録の二つ目「健康に気を付け、元気に生活をする。」を「安全に気を付け、元気に生活をする。」に変更希望です。普段安全に気を付けて過ごしている人でも、病気にかかっていた場合、Aをつけにくくなってしまったためです。	
56	教務			通知表「行動の記録」の内容を見直したい。 「挨拶、時間、整理」「健康、元気に」だと、評価が難しかった。別々がいい。	
57	教務			○通知表について ・行動の記録 2つ目の「健康に」を「安全に」に変更してはどうか。 →廊下の歩行や行動面において、安全に気を付けることができたかを評価していきたいと感じた。また、コロナ期を経て、無欠席への重要度が低下しているように感じるため。 ・評価の大まかな基準を学校で統一してはどうか。 →テストの評価で言うと、Aは90（95）点以上、Bは70（60）点以上などの基準があると、学校全体として保護者にも説明がしやすいと感じる。	
58	教務			通知表の所見の精選に取り組み、且つ一つ一つの所見の内容の質を上げることに取り組む。そのため以下を提案する。また、これがより一層児童と関わる時間・児童のために使える時間・自己研鑽の時間の確保につながり、働き方改革とも結び付くと考える。 ＜1学期＞ 低学年→全体所見 中学年→全体所見・外国語活動 高学年→全体所見 ＜2学期＞ 低学年→日本語 ※個人面談実施 中高学年→日本語・総合的な学習の時間 ※個人面談実施 ＜3学期＞ 全学年→全体所見・道徳	

59	教務	15. 年間授業時数	年度初めの午前授業はとてもありがたかったです。	○もみの木タイムについて もみの木タイムの時数を国語以外でカウントすることは難しいか。（区でそう決まっているのであれば、そのまま大丈夫です。）少人数算数の実施時数との確認が手間になるが、せめて国語と算数で換算することができるとありがたい。	国語と算数を半分ずつで、もみの木タイムを計画して進める。 国語→漢字の学習、復習 算数→プリント、復習 事前に計画し、計画に沿って進める。
60	教務	16. 生活時程・週時程・時間割	月曜時程を適宜入れていただいたことで、曜日による教科の偏りがだいぶ均された。	月曜に講師の先生が入っている場合、講師の先生の教科の授業は行えず、振り替えることができなかった。 →講師の先生の都合もあるが、講師の先生は月曜以外の曜日に固めるか、月曜時程の日の出勤をお願いするかにしたい。	・来年度も月曜日が休日となることが多く、調整が必要となる。この調整が少しでもやりやすくなるように別の曜日で月曜時程を設定した。月曜時程を設定しない場合、特に専科の時間割調整が難しくなる。 ・講師の先生の時間割は、講師の先生の都合があるため本校の都合のみで調整するのは限界がある。
61	教務			講師の先生が勤務できる日が限られていたので、月曜時程など振り返られていても、実施できなかった。また、もみの木コンサート前の体育館割り当ての時間も不在が多かった。	
62	教務			音楽の講師が来られない日が多く、連携をとっている教員が少ないと感じた。	
63	教務		時数削減の工夫ありがとうございます。	木曜午後の図工はかなりカットされ回復もしにくかった。仕方ない？	
64	生活			掃除の時間が20分はやや長い。15分でもよい？	提案通り。他の意見があれば聞きたい。
65	生活			掃除の時間がもう5分短くてもいいかと思います。その分下校が5分早くなります。（あくまで高学年の意見です。低中学年の現状はわかりません。）	
66	教務			給食の回数を増やす。次年度は振替のない土曜授業が廃止のため、給食の回数を増やして年間行事予定を組み立て、年間授業時数の計画も行うようにする。学校関係者評価アンケートにも対応した内容とできる。	左記のように計画していく。
67		17. 運営組織・校務分掌・各種委員会	学芸的行事委員会は、各学年の先生方に入っていて、いろんな意見をいただけたのでよかったです。		
68			学芸的行事委員会は、メンバーが専科のみで、学芸会の計画運営が厳しい面もあったが、今年度は本来の、学級担任も混ざった委員会となり、連携がしやすかった。継続してほしい。		
69	教務			前年度の反省を受け、特別活動・生活指導の人数を増やしていただいたが、特別活動は3人でも十分なので教務部の人数を増やしたい。	校長先生に意見として把握していただく。
70				次年度は「生活・研究・特活の三部会にして、それぞれに5名以上入れるようにする。」「教務事務を教員全員で分担する。」「教務主任は三部会には所属せず、教務関係の統括を行う。」とする形が、よりバランスがよくなり、組織的な取組、円滑な引継ぎにつながると考えます。	校長先生に意見として把握していただく。
71		19. 研究・研修・OJT	総合や若葉会など学ぶ機会が工夫されていてよかった。		

72	研修			○夏のOJTについて 夏休み終わりではなく、始まりに入れてもいいのか。 →総合の研修などとても有意義な研修であったと感じる。しかし、よく練ることができずに2学期が始まってしまった。研修を生かすためにも、夏休みの始まりにOJTを計画できればと考える。そうすれば、夏休みのうちに検討などが行え、2学期の教育活動に生かすことができると考えた。	来年度、そのように計画する。
73	研修			夏の研修でやった「総合的な学習の時間」についてなど、もう少し早めの時期にあるとよかった。	来年度、そのように計画する。
74	研修			OJT研修ですが、夏休みのojt研究は前半にやるべきでした。前半にやって夏休みに学年や個人で練れるようにしたいです。また、通年を通してやるOJT研修では副校長先生にやっていただいた研修が大変有意義でした。形だけではなく、内容にこだわり今学校や若手の先生方に必要なことをやっていけるよう計画していきます。	来年度、そのように計画する。
75	教務	20. 情報 I C T		○メディアリテラシーの育成について 年間指導計画（学級活動か道徳、総合）と情報活用能力育成全体計画を更新して、各学年での身に付けたいメディアリテラシーの内容を明記したい。 （低学年：使う時間やルール、中学年：設定やフィルタリング機能・ネット上の情報信頼度について、高学年：ネット依存やSNSトラブル、あたりでしょうか。）	来年度の情報活用能力育成全体計画に反映させ、教育DX担当を中心に実践していく。
76	生活			年度のどこかで実施するべきこと （○月の土曜授業日など決める） ・ネットリテラシー要素 ・インターネットの危険性 （SNS東京、NHKforschoolの活用） 教職員での共通理解をもちたい事項 ・学習用アプリのインストール、取り扱い（担任裁量？）	提案通り 教務と相談して日程を取りたい。 →リテラシーの面なので、生活指導部主導で、安全指導や学級活動（2）で実施できるように計画を示す。
77	生活	21. 施設・ 安全	鉄棒の腐食、桜の木の倒木の危険性など、安全に対して校内で迅速に対応できていた。	安全点検の徹底の継続	提案通り 校庭の見回りポイントを確認していく。
78			体育館の屋根の冷却装置が設置され、夏の体育館内の温度が高温にならないようになった。		
79	教務		主事さんが毎日いろいろな場所を掃除してくださり、長期休業中にはワックスがけもしてくださるおかげできれいな校舎で過ごすことができ、とてもありがたい。	2年生の生活科で使う畑（西校舎屋上）への動線が、使い勝手が悪い。 →畑の場所を変えるのは難しいので、2年生に畑専用の靴（長靴？）を用意させ、その靴置き場として倉庫前に棚を設置するのはどうか。また、それに加えて教室の場所を2年生と3年生を入れ替えて、少しでも活動自体の時間を確保できるようにしたい。	・生活科で予算を取って、1階外にげた箱をおけないか。BOP廊下の出入り口から入れば、汚れる範囲が少なくて済む。
80	教務			2年生の畑が西の屋上にあり、毎日のお世話をするのに靴を取りに行くことを考えると、移動が大変だった。長靴など専用のものを置けるようになるとうい。	→畑入口のできるだけそばにげた箱を置くことを進める。2年生は、畑用の靴を一足学校に置いておくようにする。保護者に依頼し、進める。
81	生活			西の屋上への移動が大変。靴をとって上がると、毎日お世話をするのがむずかしい。せめて西の屋上専用の靴箱があるとよいと感じた。	

82		2 3 . 出 納・経理・ 予算		学年で使ったプランターやアサガオの植木鉢が持ち主不明のまま何年も放置されていることが多い。プランターはどの学年が使っているか分かるようにしてもらえると次年度処理しやすい。	左記のように改善する。
83	生活		安全点検で要修繕箇所を継続観察した。	屋上の排水改善に予算をとってほしい。	提案通り
84	教務			○鍵の管理について 児童の手に渡る鍵（理科室・家庭科室・放送室など）のキーホルダーを大きくし、紛失や置き忘れなどが無いようにしたい。また、家庭科室の鍵は準備室のものと一緒になっているため、分けて保管し、児童の手には渡らないようにする。	左記のように改善する。
85	生活		生活科室、児童会室の活用について	1年生の図工や生活科で作った作品を前年度まで生活科室に保管していましたが、今年度は保管が難しい状況でした。→児童会室があまり活用されていないため、児童会室にほっとルームや取り出しの学習の部屋を移し、生活科室で作品を保管しやすい環境にしていきたいです。	よいが、児童改質に保管してもよいのではないか。現状はカギをかける必要があるので丁度よい。 生活科室は活動の部屋では？算数にもほっとルームにも使っている。
86	教務	2 2 . 出 納・経理・ 予算		教材費を保護者が教材会社に直接振り込むやり方は実施可能か	現時点では難しい。一斉集金の段取りの際に教材会社に確認する。
87	生活	2 4 . 給食		課題：給食の喫食前後で立ち歩きが目立つ学級が多い。休み時間ではない自由な時間に児童の安全管理が甘くなるし、実際に、トラブルが起きそうだなと思う場面もあった。アレルギーの接触禁もあるので、片付け後の着席は徹底したい。 改善策：生活指導で、給食の片付けが終わったあとは、着席して、昼休み開始のチャイムを待つ指導を学校で統一したい。トイレ、手洗いうがいは行ってよい。	1 2 : 5 5 ごちそうさまが原則。1 3 : 0 0 までは教室待機。立ち歩かないよう指導の工夫を。
88	生活			・給食の時間が各クラスによって違う。ごちそうさまの時間なども学校で統一し、時間内に配膳下膳が終わるようにするとよいと思いました。	
89	生活			ランチニュースが長く、内容が難しい。放送委員でさえ読み間違えているものを低学年の児童は読めない。簡潔で、ふりがなを全てふってほしい。	・短くて良い。ご検討ください。 ・教職員への連絡は、ランチニュースでなく生活指導部給食担当と相談し、職員会議や終礼で周知する。 ・子ども向けの内容を給食時に流せるように精査する。
90	生活			ランチニュースを有効活用しきれていない。 →毎日、栄養士さんの思いのつまったランチニュースを開けるのはとてもありがたいし大人としてはとても興味深い内容だが、放送委員が読むのにつまずきながらになってしまっている。（事前練習をさせたい）また教室で低学年が音読するには少し長くて食事時間の確保の面から難しく、もったいないと感じる。もう少し短くしていただくことは可能でしょうか。	
91	生活			ランチニュースは、低学年でも簡単に読めるように短めにしたい。	
92	教務	2 5 . 読書・ 図書館	司書さんが季節や時事（作家の方の訃報など）に合わせた掲示や選書をしてくださるのが大変ありがたい。		
93			TRCの方に国語や生活などの本を学年でたくさん用意してもらった。また、内容も子どもたちが分かりやすいようにと考えて細かく丁寧に選んでもらい助かった。		

94	研修	26. 学校関係者評価アンケートを受け		読書の習慣がついていないと感じたので、モジュール扱いでない123年は、毎週〇曜日のもみの木タイムは読書時間にするなど、習慣付ける取組をしたい。	読書の習慣をつけることは大切。 全校で金曜日は読書の時間などに統一してみてはどうか。 →123年生がもみの木タイムで取り組む。
95	研修			子どもたちが学ぶことが楽しいと思える授業改善により一層取り組む。 →区や都、教師道場など、研究会に積極的に参加し、私たち教員も主体的に活動すべき。外部で学ぶことなくして授業力の向上はないと考える。また楽しい授業の実現も同様である。	・まずは、世小研を大切にし、学びたい、深めたい部会に積極的に参加する。 ・副校長先生が回してくださる回覧から、研究発表などの情報を研修部で収集し、「これは」と思うものには参加させていただくようにする。その後校内で共有する。
96	特活			課題：めあてを立ててはいても、板書などで視覚化している先生と、視覚化していない先生の差が大きい。 改善策：児童が目標を理解して学校生活を送るために、どんな学習/授業でも、めあてを板書し、児童とめあてをおさえてから進めていくことが必要。 まずは毎時間、学校全体でめあてを立て、振り返る学習（学習を進める基本だが）形態を確立したい。	・基本的な授業の流れは「めあて～まとめ・振り返り」を意識する。 しかし、授業の内容によってはめあてを書かずにスタートさせたいこともある。 →どちらにせよ、児童がその時間に「何を学んだのか」「どんな力がついたのか」が実感できるように授業展開できるように指導法を工夫する。
97	研修			「子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している」の数値が下がっている。 →児童一人一人が目標をもち、振り返りを大切にし、取組を進める。これらをキャリアパスポートで積み重ねる。校務分掌のキャリア教育担当がキャリアパスポートの取り組み方の計画を示し、全学年で系統性をもたせた取組を進める。	・めあてカードの活用方法を工夫する。（6年生は各月ごとに振り返りを行い、その都度、目標達成に向けてコメントを入れたり個人と話をしたりした。） ・担当が計画を立て、校内に周知するようにする。また、めあてカードの書式など各学年の物を集約できるフォルダを作成し、校内全体でよいものを共有できるようにする。
98	生活			○「注意されたことは理解できる」 改善に向けて →・納得できるよう例を挙げて説明する。・SNSなどで、「学校の決まりはおかしい」などということを目にしている児童も多くいると考えられる。「先生はあなたたちを大事に思っているから伝えている」ということも合わせて伝えたい。 ○「目標をもち、その実現に向けて努力している」 改善に向けて ・何のために行っているのかということが伝えきれていない。自分自身も明確になっておらず、ぼんやり伝えただけになっていることもあった。 →ゴールに向けて要所要所で一人一人に対しフィードバックをすることが必要であると感じる。児童と共に、現在地点を確認し、「達成するためにはどうしたらよいか、何が必要なのか」を一緒に確認できるようにしたい。	提案通り
99	生活			「先生に注意されたことは理解できる」の数値が下がっている。 →高学年をもつことが多いが、児童から今までに注意されて納得がいかなかった話を聞くことが大変多い。内容としては「大声で怒られて怖かった。怖かったから何も言えなかった。」「一方的に決めつけられた。」「自分の話を聞いてくれなかった。」等が多い。そういった不満をもっている児童は、大人に対する信頼感が低く、指導が入りにくいため、高学年になるとより指導が難しくなる。低中学年のうちから、（もちろん高学年でも）時間はかかってもしっかりと話を聞き、納得感をもたせ指導を行っていきたい。	提案通り 努力し工夫を続ける。

100	生活	て		「先生に注意されたことは理解できる」の数値が下がっている。 →特別支援や多様な児童の特性がある中、自分の指導を振り返り、常にブラッシュアップして一人一人に響く指導力を高めていかななくてはならない。集団全体を納得感をもって動かせる指導力を高めていかななくてはならない。褒めるのは周りから、反省や課題は児童が自分自身から言えるようにする。受容・傾聴・共感がまず重要。当たり前のことを当たり前に粘り強く指導を続ける。一方的な注意や指導では子どもが納得できないことがある。子どもが思いや考えを出して、その子どもの言葉を生かして、時には先生が毅然と楔を打って、適切な方向で合意形成を図れるように努力していきたい。	提案通り 努力し工夫を続ける。
101	研修			低学年の場合、個人面談の際に、キャリアパスポートを上手く活用できなかった。中身を充実させる。具体的な活用方法を共有したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期のめあてカード、全体の行事のカードをファイルに綴じるように校内で統一する。 ・めあてカードなどを書かせる際には、ファイルを手元に置かせ、今までの自分を振り返りながら目標を設定できるようにする。
102	研修			キャリアパスポートが個人面談で活用しにくかった。内容物の充実を図る。また、具体的な活用方法を共有してほしい。	
103	研修			キャリアパスポートの活用をより一層推進したい。 →キャリアパスポートの活用を推進し、子どもも保護者もキャリアパスポートに触れる機会を増やす。保護者については、４月・１１月の面談でキャリアパスポートを見せる。４月は自分のお子さんがどんな１学期のめあてを立ててスタートしているかを共有できるようにする。１１月は今年度と同様。	
104	研修			「子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」の数値がさがっている。 →キャリア・未来デザイン教育担当が中心となり、子どもの生き方や将来のことについて考える授業づくりについて検討し、取組を実践していく。現在、４・６年生はその機会の位置付けが比較的明確だが、その他の学年中心に充実を図る。	取り組んでいることを周知することも必要だと考える。→全学年と考えた時、道徳地区公開講座などで、価値項目「よりよく生きる喜び」「個性の伸長」などに絞って授業を行ってはどうか。保護者の手元にも指導案が渡ることから、実際に取り組んでいることの周知にもつながると思う。 (道徳の学習は内面的資質を育てる教科であり、行動を学ぶ教科ではないので気を付ける)
105	教務			学校の重点目標の保護者への周知を強化する。 →重点目標を年度初めの保護者会にて、大きくアピールする。HPのトップで、最も分かりやすいところに、常に見られるようにする。すぐるでも年度初めに内容を配信し、保護者が見返せるようにする。重点目標と各教育活動の関連をまず教員が十分に理解し、その上の取組であることを意識して日々の活動の保護者への発信も行っていく。	左記のように改善する。
106				職員室のリサイクルボックスへの捨て方。CDや輪ゴム、ビニールなどが入っている。何度か声を掛け、改善をお願いしたが変わらない。回収不可になる場合もある。	左記のように改善する。
107	教務			○学級閉鎖の際、BOPに行けるかななどを年度当初に確認し、周知する。もしくは、BOPさんの方から周知してもらうか。 １年生の保護者の方には、特にその辺も事前にお知らせしておいた方がよいと思いました。 ○算数の取り出し支援は、できれば算数の時間ではないところで取れないか。ただでさえ、理解に時間がかかる児童が算数の時間に１時間抜けてしまうのは難しい。	算数の取り出しについて今後話し合いを進めるので、その際の検討事項に加える。

108	生活	27. その他		WBGTの指数が高いとき、熱中症警戒アラートが発令されたときは校外に出ないことを徹底する。年度初めの保護者会でも周知し、様々な活動の際に事前に保護者にお知らせするようにする。休み時間、体育の授業、校外学習、夏休み中の当番活動等で同様に考えていく。	提案通り 周知していく。教育計画の生活指導ページにも載せる。
109	教務			課題と改善策：夏休み、熱中症警戒アラートが発出されたら、児童は登校しないルールとなったが、熱中症警戒アラートが発出されていても飼育委員会が登校し、児童の登下校の熱中症の危険がある日があった。近年の夏休みは熱中症警戒アラートが発出されやすい傾向があり、また、児童への連絡もつきにくいことも考えられるので、日直の仕事に、生物のえさやり、水やりに加えて、カメの餌やり&水槽の清掃を入れてもよいのではないかな？	左記のように改善する。
110	教務			職員会議の資料は必ず、teamsの職員会議フォルダに入れるようにしたらどうか。投稿欄や生活指導のフォルダにあるものも、その日提案するものが一括して職員会議フォルダにあると分かりやすい。	左記のように改善する。 職員会議以外でも共有したい内容は投稿も活用する。（ファイルに直接入れると、どこに何が入ったか分からず気付いてもらえないため。投稿すれば新規の情報が何かすぐに分かる）